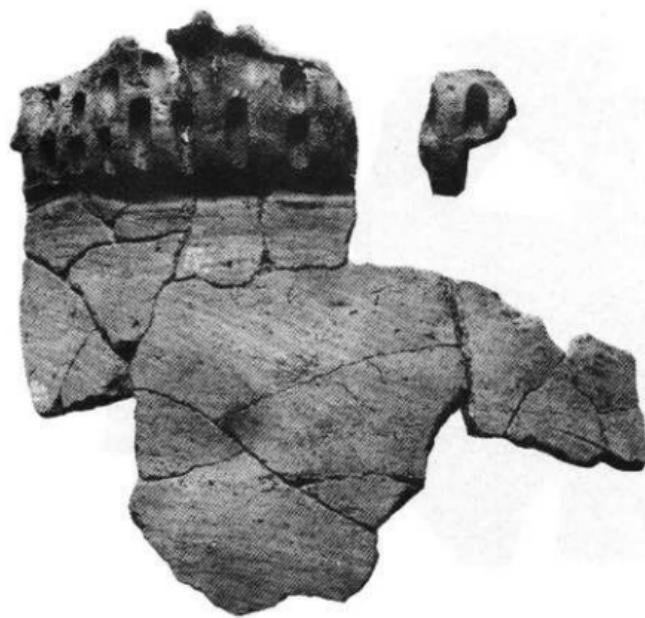




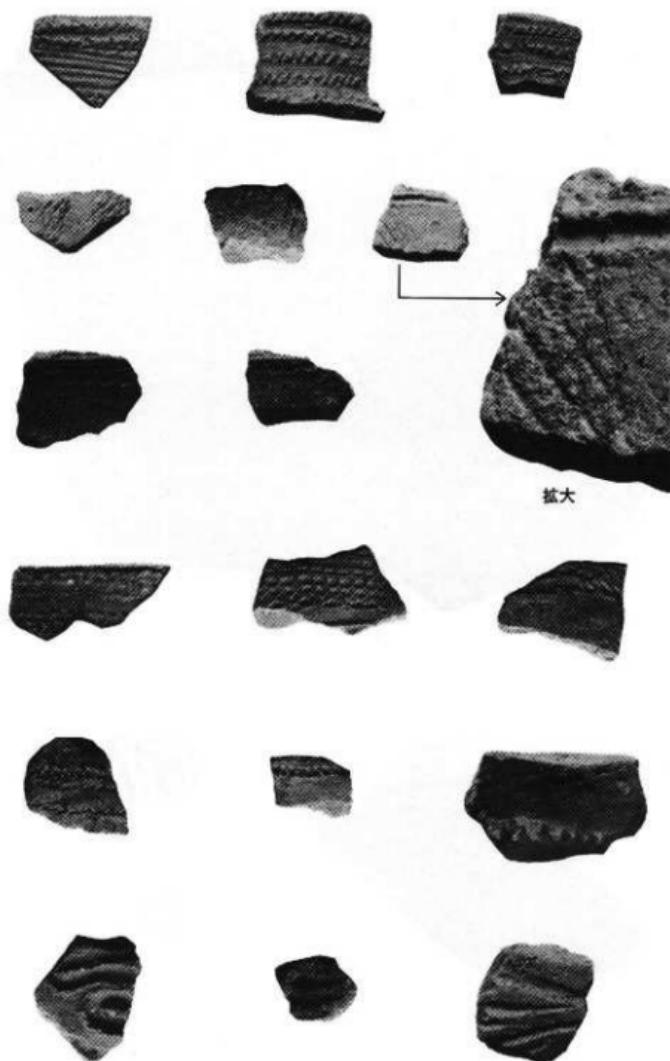
土器 (2)



土器 (3)



土器 (4)



土器 (5)



拡大



土器 (6)



石鏃・石匙

九州縦貫自動車道埋蔵文化財
一発掘調査報告書一
(3)

発行 昭和55年3月31日
宮崎県教育委員会

編集 宮崎県教育庁文化課

印刷 合資会社愛文社印刷所

九州縦貫自動車道埋蔵文化財 発掘調査報告書（付図）



昭和55年3月

宮崎県教育委員会

●九州縦貫自動車道遺跡の概要

はじめに

九州縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査は、日本道路公団の委託を受けて、宮崎県教育委員会が実施したものである。

昭和47~48年度にえびの・高原間10遺跡について、昭和51~53年度に高原・宮崎間11遺跡及び鹿児島線えびの市前畠遺跡の12遺跡について、合計22遺跡の発掘調査を行なった。

この文化地図は、22遺跡の調査結果概要を報ずることによって、県内の主な文化財について記載することによって、九州縦貫自動車道関係遺跡のより一層の理解を深めることを目的として作成したものである。

2. 九州縦貫自動車道遺跡

第1期工事えびの～高原間は、えびの市、小林市、高原町を通過する。霧島火山群の山麓にあたる地域一帯は、広大とした草原地、広大な畑や田園が広がり、古代から人々の生活が営まれてきた。從って縄文、弥生、古墳各時代の遺跡及び城跡、古戦場、闇跡等歴史時代の史跡が多いが、地下式横穴が広く分布することを特色とする。

自動車道建設帯には、えびの市の灰塚、鳥越、久見追、馬頭、小木原の5遺跡、小林市の平木塚、こまくらげ、鷹巣原、竹山の4遺跡、高岡町の立山遺跡の10遺跡がかかるところにより、発掘調査により記録保存を行なった。

第2期工事の高原～宮崎間は、高崎町、山田町、都城市、高城町、山之口町、田野町、清武町、宮崎市を通過する。この間は霧島火山群の噴火により形成された高原状の都城盆地、降雨量の多い

ことで知られる青井岳、灰塚の両山地そして、田野の火山灰台地、宮崎平野による。

自動車道建設帯には、高崎町の鳥原原、上所迫、栗巣上原、下原、今村の5遺跡、山田町の牛谷遺跡、都城市の丸谷第1、第2遺跡、田野町の黒草遺跡、清武町の小原、城内遺跡及び鹿児島線えびの市前畠遺跡が所在した。

これら12遺跡は、えびの～高原間同様、県が

道路公団から委託を受け発掘調査を行なった。



●えびの～高原間遺跡（小林市）

1. こまくらげ遺跡

小林市の南西出ノ山公園を望む段丘にある凹地状の遺跡である。地層は地表より黒色土（I層）、漆黒色土（II層）、黄褐色土（III層）、黒褐色土（IV層）、淡黃褐色土（V層）、赤褐色土（VI層）からなる。遺物はII層から土器器及び須恵器片、IV層から繩文土器片が出土した。

土器器は高台を有し精製された小形の土器器、土器内面に布痕のある手づくねの碗形土器、それに大型で器面調整のやや荒い壺形土器の3種で、繩文土器は晩期黑色磨研土器、後期の市来式土器、市来式系土器、岩崎上層式土器の4種であった。



▲竹山遺跡出土 布目庄痕土器

2. 竹山遺跡

霧島火山社は小林市の南西約4kmの地にあるが、竹山遺跡は神社にほど近い丘陵遺跡で弥生土器の散布地として知られていた。

当遺跡は発掘地域の制約により出土土器の層位の編年までいかなかつた。しかし弥生終末式とみられる絡縄凸唇土器、布痕土器の出土をみ、この種の土器の解明の手がかりを見出している。

●高原～宮崎間遺跡（清武町）



▲城内遺跡



城内遺跡

清武川を眼下に望む自然の要害に清武城跡（清武駅の北西約2km）がある。この城跡は一度低い平坦地が城内遺跡である。

遺構として河原石や凝灰岩で積まれた石垣や20mに及ぶV字状溝及び柱穴が多く発見されたが、清武城と間違する遺構か跡かどうかは明確にされなかつた。

遺物としては、青磁、白磁、染付の磁器片が多数、それに洪武通宝、永楽通宝の銅錢、刀や刀子の残片が出土した。又土鍬が多く出土したが、魚網用か馬の尻がい用か論議を呼んだ。

●高原～宮崎間遺跡（都城市）

1. 丸谷第1遺跡

都城市の北東約10km、丸谷川を望む台地上の遺跡である。この遺跡からは2棟分の住居跡が発見された。1号住居跡は1辺7mの方形プランで、幅1mのベッド状造構及び3方に張り出し部分を、2号住居跡は1辺8mの隅丸方形プランで、2方に張り出し部分を有していた。又1、2号共にが踏み落込み部分を検出している。

遺物は弥生末期のもので、甕、鉢、高杯、壺形土器、砾石や石包丁などの石器、鐵鏃等を出土した。なお1号住居跡からガラス製小玉、管玉、2号住居跡から線刻のある壺形土器が発見されている。



▲出土土器

●九州縦貫自動車道遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	時代	造構・遺物
1	前畠遺跡	えびの市	縄文	繩文式土器、石鏃、
2	灰塚遺跡	えびの市	縄文～古墳	地下式古墳1基
3	鳥越遺跡	えびの市	弥生～古墳	弥生式土器ほか
4	小木原遺跡	えびの市	古	地下式古墳2基
5	久見追遺跡	えびの市	古	地下式古墳10基(刀、鐵鏃)
6	馬頭遺跡	えびの市	古	地下式古墳3基
7	平木場遺跡	小林市	縄文～古墳	繩文式土器、弥生式土器
8	駒巣毛遺跡	小林市	縄文、古墳	土師器、須恵器、繩文土器
9	竹山遺跡	小林市	弥生～古墳	弥生式土器、布痕土器
10	鹿巣原遺跡	小林市	層位確認	
11	立山遺跡	高岡町	層位確認	
12	鳥井原遺跡	高岡町	弥生	弥生式土器
13	上所迫遺跡	高岡町	弥生	弥生式土器
14	栗巣上原遺跡	高岡町	縄文～弥生	繩文式土器、弥生式土器
15	下原遺跡	高岡町	縄文～平安	柱穴群、かまど、各種土器
16	今村遺跡	高岡町	弥生	弥生式土器
17	牛谷遺跡	山田町	弥生	層位確認
18	丸谷第2遺跡	都城市	縄文～弥生	繩文式土器、弥生式土器
19	丸谷第1遺跡	都城市	弥生	弥生式土器
20	黒山遺跡	田舎町	縄文	繩文式土器、石鏃
21	小原遺跡	清武町	縄文～古墳	繩文式土器、石鏃
22	城内遺跡	清武町	縄文～近世	青磁、白磁、刀、土鍬

●宮崎県の文化財の特色

宮崎県の文化財の特色は、(1)神話伝承の豊富な宮崎にふきわしく、神像、神面、神鏡にすぐるものがあること、(2)全国風土記の丘第1号とて西都原風土記の丘が世界の光輝を浴びたように古墳が多いこと、(3)植物分布上の南限地、北限地が混在しており天然記念物、特に植物の指定物が多いことにある。

以下種別ごとに本県の文化財を概観してみよう。



▲国指定天然記念物
青島の隆起海床と奇形波食痕

▼特別史跡 西都原古墳群



●史跡



▲県指定史跡、国分寺跡（西都市）

史跡と一口に言つても、貝塚、遺物包含地、古墳、城跡、古戦場、社寺跡、経塚、問跡、旧宅と実に幅広い。

本県は古代史跡に富み、西都市及び兒湯郡に西都原、茶臼原、川南、宮崎市に生日、東諸郡に本庄、県北延岡市に南方等の古墳群が国の史跡になっている。これら古墳群が構成する5世紀から6世紀にかけて築造された前後円墳、円墳等は、神話や伝説に彩られる日向の特色を裏づけるものである。

また歴史時代の史跡としては、戦国時代島津と伊東の抗争の跡を示す数々の史跡が県内各地に残るが、代表的なものとしては、祇園城攻めで戦死した伊東の將兵を祀った日南市中ノ尾の供養碑、伊東没落の原因となった木崎原合戦の戦死者を祀った小林市木崎原の伊東塚がある。

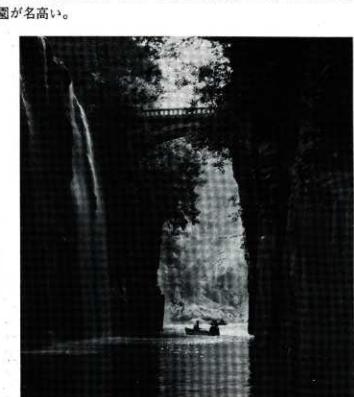
この他、江戸時代の宇佐安井息軒旧宅（清武町）、名僧古月禅師の分骨塔（佐土原町）、日向国分寺跡（西都市）等の史跡があるが、これらは県の歴史にとってかけがえのないものである。

●名勝

本県は「緑と太陽の国」を標榜するように大自然に恵まれた風光のうるわしい県である。東部は黒潮の日向灘に面し、西部は九州山地が走り、南西部は霧島火山群がある。

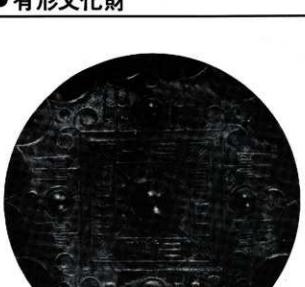
県・県指定名勝としては、山岳に花崗岩からなる比叡山及び矢ヶ嶽（日之影町・北方町）並びに行慶巖（延岡市）、瀑布布に瀧山（高千穂町）、尾鈴瀑布群（都農町）、須木の滝（須木村）、島嶼に侵食洞で知られる白島（門川町）、等があり行楽地として親しまれている。

庭園は尾鈴山系の石英斑岩を懸崖に、また池にいかした日向市妙国寺庭園、橋口氏庭園、規模は小さいが苔岩と樹木を巧みに配した日南市勝野庭園が名高い。



▲県指定名勝天然記念物 五ヶ瀧川峡谷（高千穂町）

●有形文化財



▲県指定有形文化財
方格四乳茎文鏡
(西都市銀鏡神社)

紀元前一世紀頃出土された漢式鏡製鏡で「見日之火天下大明」の八字を鏡出する

古代文化が隆盛した日向の國も時代が下つにつれ、都を遠く離れた僻遠の地であるせいか、各時代の特筆すべき文化遺産はない。しかし、神社に伝わる文化財にはすぐるものがある。高千穂町高千穂神社の鉄造狛犬及び神像、西都市銀鏡神社の神面と方格四乳茎文鏡などである。

又、寺院にも仏画、仏像、梵鏡、雲板、華蓋、象頭などの美術工芸品が存する。著名なものとしては土原町大光寺の騎獣文珠菩薩像及び乾旱土墨墨跡、宮富町万福寺の阿弥陀如来像、宮崎市王樂寺の薬師如意像等がある。

なお、石造六地蔵は県内の市町村にもあり、時代により地城により形態の変化、字体の変化があるので研究者が多い。

●民俗文化財

有形文化財が芸術品としての鑑賞性を第一義的なものとすれば、民俗文化財は用と美をねね備えたいわゆる當面性、庶民性を第一義的とする。

本県は総面積の約70%が山地で、ごく最近まで高千穂、米良、椎葉地方は秘境として知られた。これらの地方には、風俗、習慣、郷土芸能に関する民俗学上貴重な資料がよく保存されており、なかでも西都原資料館展示の東米良の狩猟用具27点は重視されている。

又、本県は郷土芸能、民謡の宝庫で歌舞のひえつき節、高千穂のかり干切歌は広く世に知られ、かつ歌われている。神楽はいたいの市町村に伝承されているが、年ごとに神楽宿を定め、夜を徹して舞れる高千穂の夜神楽、狩猟神事と神楽にとり入れた米良神楽は名高い。臼杵鼓踊も本県を代表する無形の民俗文化財であるが、西都市下水流のものが知られる。



▲重要無形民俗文化財
高千穂の夜神楽

高千穂の夜神楽は、夜神楽を各地区ごとに毎年12月1日、1月1日、地区的祭として民衆を神楽宿に定めて行なう。

●天然記念物

天然記念物の多いことは、九州では福岡県についている。植物ではイチヨウ、クスの巨樹が多いが、特に分布限界が南と北の合流点の感がするほど、分布が北にのびるものとしては、日南市船戸のヘゴ自生北限地帯、都井岬のツツジ自生地、南にのびるものとしては、小林市のエヒメアヤメ自生南限地帯が知られる。また青島の亜熱帯性植物群落は県外にも知られ島内はジャングルの様相を示している。

動物ではニホンザルの研究に欠かせない串間市幸島のサル生息地、同じく約70頭の岬が野生の状態で生息している都井岬の繁殖地があり、また近年産卵のため日向灘の海浜に上陸するアカミガメが注目されている。

地質学的には、鬼の洗濯岩の別称で知られる日南海岸の隆起海床と奇形波食痕。都城市門川町の港口一帯の河床に数百にわたって形成された窓穴群があり、自然の不思議な造形に心打たれる。



▲国指定天然記念物 幸島猿生島地(串間市)

動物ではニホンザルの研究に欠かせない串間市幸島のサル生息

宮崎県文化財分布図

〔含む九州縦貫道調査遺跡〕

国指定文化財

番号	名 称	所在地
▲ 重要文化財		
1	木造薬師如来及び阿彌陀佛三尊	宮崎市
2	木造薬師如来及び阿彌陀佛天蓋一頂	佐土原町
3	木造阿弥陀如来及び阿彌陀佛三尊	國富町
4	鐵造大蛇	高千穂町
5	乾漆墨戲六種	佐土原町
6	御印文瓦湯都之印	西都市
7	旧木家住宅	宮崎市
8	柳家住宅	宮崎市
9	柳家住宅	椎葉村
10	巨神社社殿	佐土原町
■ 重要形民文化財		
11	京瓦食器鋲用具	西都市
■ 重要形民文化財		
12	高千穂の夜來	高千穂町
13	米穀束	西都市
● 特別史跡		
14	西原古墳群	西都市
◎ 特別天然記念物		
15	青島連熱帯性植物群落	宮崎市
16	都城のテツノ日生地	中間市
17	内海のヤッコソク発生地	宮崎市
▲ 史跡		
18	生石古墳群	宮崎市
19	水庄古墳群	国富町
20	茶原古墳群	西都市
21	持谷古墳群	高鍋町
22	新原古墳群	新富町
23	川南古墳群	川南町
24	南方古墳群	延岡市
25	轟ヶ池古墳群	宮崎市
26	千畠古墳	西都市
27	松本塚古墳	西都市
28	今町一里塚	都城市
29	中ノ尾供養碑	日南市
30	都城原供養塔	川南町
31	安井息軒の宅	清武町
◆ 重要伝統的建造物群保存地区		
32	五ヶ瀬川峡谷(高千穂峠)	高千穂町
△ 名勝		
33	妙寺洞窟	日向市
34	尾山津古墳群	都農町
35	比叡山及び矢筈坂	日之影町

九州縦貫道調査遺跡

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代
1	前原遺跡	えびの市	縄文
2	原塚遺跡	*	縄文・古墳
3	鳥越遺跡	*	弥生・古墳
4	小木原遺跡	*	古
5	久見追遺跡	*	*
6	馬頭遺跡	*	*
7	平木場遺跡	小林市	縄文・古墳
8	新堀毛遺跡	*	縄文・古墳
9	竹山遺跡	*	弥生・古墳
10	黒屋原遺跡	*	*
11	立山遺跡	高千穂町	*
12	烏井原遺跡	高千穂町	弥生
13	上所追遺跡	*	*
14	篠栗上原遺跡	*	縄文・弥生
15	下原遺跡	*	縄文・平安
16	今村遺跡	*	弥生
17	牛谷遺跡	山田町	弥生
18	元谷第2遺跡	都城	縄文・弥生
19	元谷第1遺跡	*	弥生
20	黒草遺跡	田野町	縄文
21	小原遺跡	清武町	縄文・古墳
22	域内遺跡	*	縄文・近世

